

# 「青年フェスタ」へ行こう！

当日に向けてレポート交流しました！



3本のレポートを交流しました

1本目は、「保健室に男性がいる！」というタイトルで、知的支援学校の保健室からのレポート発表でした。保健室の中でも、男性であるという立場でこれまで感じたことや担任の先生方との連携など、悩みや願いなどを含め少數職種からの貴重な報告でした。参加者からは、保健室の中でも、特に知的支援学校独特の経験などをもつと聞きたいたい！と、レポートを更に深める交流になりました。

2本目は、肢体不自由支援学校の報告で、これまでの授業の中で最も決まりました。府立支援学校の「過大・過密」解消は子どもたちの教育条件整備と教職員の働き方に直結する

1月18日に、青年部実践力UP講座「プレフェスタ」を開催し、6人が参加しました。今回の講座では、2月8日(土)青年フェスタのレポート交流会で発表予定のレポーターが、プレ発表という形で3本のレポートを報告し、当日にむけて内容の意見交流をしました。

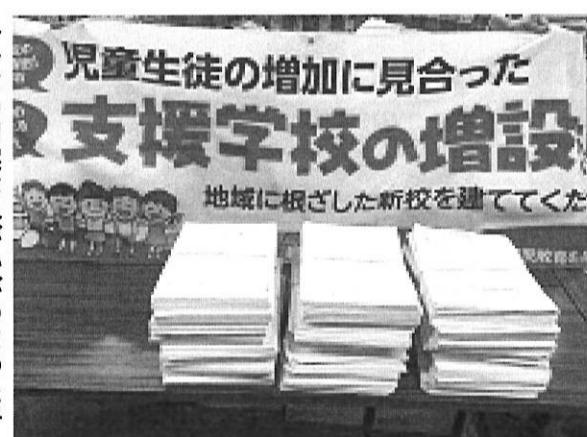
1月18日に、青年部実践力UP講座「プレフェスタ」を開催し、6人が参加しました。今回の講座では、2月8日(土)青年フェスタのレポート交流会で発表予定のレポーターが、プレ発表という形で3本のレポートを報告し、当日にむけて内容の意見交流をしました。

# 大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL) 6765-8904  
(FAX) 6765-8905

## 署名提出行動

日時：2月18日(火)  
10:30～  
場所：大阪府庁本館



みんなの切実なねがいがつまつた署名

## 2月18日署名提出行動

### 最後の一筆まで請願署名をお届けください！

(青年部長 横口真弓)

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp

『説得より納得』の原理の関係で、教師が水という一つのすでに用意した答えを求める、自分の考えに同化を求めるというのには、一方的な上からの説得的な対応ということがあります。しかし、教師の意表をつくような答えがねません。(中略)教師の意表をつくような答えにも共感の根拠を見出し、教師自身の世界を広げ、かつ他の子どもたちともその発想を分かち合うことが、納得・得心によるほんものの教育活動、人間の内面を結び高める教育の仕事の中での生きがいだということができるのではないでしようか。

ごく普通の人間が、「本物の教育者」に育ちゆくために、日々の実践に「問い合わせ」を持続けたい。(久)



書記局の  
ひとりごと

一月四日は立春。冬至と春分の真ん中で、暦の上では春。梅も咲きはじめている。

中学生の時の国語教科書に、「立春に卵が立つ」という文章があった。かすかに覚えている内容から、あれは中谷宇吉郎の「立春の卵」だったのではないか。いやいや、そんなことないか・・・。卵には表面に小さなブツブツがあり、それを利用するとうまい具合に立つ。中学生の時にやつて、簡単に出来たのでよく覚えている。立たせられた部分にブツブツの多い卵を選ぶことが大切だ。話は転じて春と言えば「雪どけ」。雪がとけたら〇〇になるとの問題で、読者のみなさんは〇〇にどんな言葉を入れますか?。これは1980年代の新聞投書欄にあつた話である双子の答えが「教育とはなにか」(大田堯)で紹介されている。一人は「みず」と答えて〇。もう一人は「はる」と答えて×だった。大田堀は、この事例から次のように述べている。

『説得より納得』の原理の関係で、教師が水という一つのすでに用意した答えを求める、自分の考えに同化を求めるというのには、一方的な上からの説得的な対応ということがあります。しかし、教師の意表をつくような答えがねません。(中略)教師の意表をつくような答えにも共感の根拠を見出し、教師自身の世界を広げ、かつ他の子どもたちともその発想を分かち合うことが、納得・得心によるほんものの教育活動、人間の内面を結び高める教育の仕事の中での生きがいだということができるのではないでしようか。

